社会教育委員ニュースレター第23号

発行　佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局　佐賀県県民環境部まなび課内

県社教委連第１回理事会

４月27日、年度初めの理事会を開催しました。

協議事項として、令和８年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員案、令和７年度事業報告・決算報告、令和８年度活動方針案、令和８年度事業計画案及び収支予算案等について協議し、総会に諮ることが決定されました。

「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、４名の方の表彰が決定されました。

また、令和７年度の協議会の「活動方針」の取組状況の報告を行い、教育委員と社会教育委員の意見交換や、学校教育と社会教育の連携など各市町での取組状況について確認し、過去の状況も含めて総会で報告することとなりました。

令和８年度　佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役　職	氏　名	所　属
会　長	上野　景三	佐城（佐賀市）
副会長	山口ひろみ	県社会教育委員
副会長	堤　公一	唐松（唐津市）
理　事	真島一英	三神（基山町）
理　事	福島スミ子	杵西（有田町）
理　事	辻田正信	藤津（嬉野市）
監　事	田中友子	杵西（武雄市）
監　事	塚本有紀子	藤津（太良町）

県社教委連総会

６月２日、アバンセホールにおいて開催しました。

○開会行事

上野会長から、「社会教育委員が日頃から地域・学校・家庭をつなぐ活動や地域の教育力向上に尽力していることに感謝。少子高齢化やデジタル技術の進展など社会環境が大きく変化する中、地域・学校・家庭の連携を深めることの重要性。」についてのあいさつがありました。

また、佐賀県県民環境部の平野副部長が来賓の祝辞の中で、日頃の委員活動に対する感謝等を述べられました。



上野 会長

○県社教委連表彰

平成30年度に創設した標記表彰について、今年度は４名の方を表彰しました。

＊受賞おめでとうございます。

唐津市　山口ひろみ氏（13年）
多久市　田島恭子氏（10年）
鹿島市　池田厚子氏（20年）
太良町　川下武則氏（10年）

（　）は、社会教育委員在任の期間

【表彰基準】
社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった者



左から山口氏、田島氏、上野会長、池田氏、川下氏

○議　事

議長に選出された太良町の川下委員の進行のもと、次の４議案について審議され、異議なく承認されました。

第1号議案
令和7年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について

7年度の支出は、実践研修会の講師謝金の辞退や全国社会教育研究大会岩手大会の旅費等の減により予算と比較し約22万円少なくなりました。また、収入は約8千円の減となりました。収入のうち、基金から5万円繰り入れました。

実践研修会を1月に開催し、多くの社会教育委員や行政職員の参加がありました。

田中監事から監査報告が行われ、適正に処理されていたことが報告されました。

第2号議案
令和8年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

前頁の表のとおり令和8年度の役員が承認されました。

第3号議案
令和8年度活動方針について

今年度の活動方針については、次のとおりです。

②、③は今年の新規の活動方針です。②の方針は「令和7年度佐賀県社会教育委員の会議・提言」を受けて追加しています。

《令和8年度活動方針》

①令和9年度九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会の成功に向けて準備に着手しましょう。

②社会教育委員は「不登校児童生徒の対策」「家庭教育支援」「地域の体験活動」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めましょう。

③社会教育人材の活用について、社会教育委員の会議で議論を深めましょう。

④ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めましょう。

⑤教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

第4号議案
令和8年度事業計画並びに予算について

10月に全国社会教育研究大会大阪大会と県社会教育委員実践研修会が、11月に九州ブロック社会教育研究大会熊本大会が開催される予定です。

基礎研修会

総会終了後、基礎研修会を開催しました。

上野会長から「社会教育委員の基本的役割」と題し、(1)社会教育委員としての出発点、(2)社会教育委員の法的位置付け、(3)現在の社会教育委員を取り巻く課題、(4)地域課題への対応、(5)佐賀県社会教育委員連絡協議会の取組について話がありました。

社会教育委員は、地域課題を発見し、地域住民・行政・学校・関係団体をつなぐコーディネーターとしての役割を担っていることを述べられました。



基礎研修会　　講師：上野 会長

第57回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会準備委員会

基礎研修会終了後、第57回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会準備委員会を開催しました。

○協議事項

上野会長の進行のもと、次の3議案について審議され、異議なく承認されました。

第１号議案
第57回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会開催要項について

大会テーマ「地域を支える『人』を育む社会教育 ～そいぎ、地域で夢ば語ろう！人が輝き、地域が育つ、つながりの輪～」を含む開催要項案を説明がありました。

第２号議案
運営組織について

大会運営組織について説明がありました。

準備委員会は22名体制により計画策定を進め、実施年度には実行委員会へ移行し、22名体制となります。

大会直前には各市町社会教育担当職員及び社会教育委員代表者を加えた拡大実行委員会62名体制を組織し、大会運営に当たることを説明がありました。

第３号議案
大会スケジュール（案）について和８年度活動方針について

今大会開催までの全体スケジュールの予定について説明がありました。

主な工程として、

・第２回準備委員会
・熊本大会視察
・第１回実行委員会
・第２回実行委員会
・第１回拡大実行委員会
・第２回拡大実行委員会
・前日準備
・佐賀大会開催

上野委員長から「大会成功のためには多くの協力が必要である。全体会では41名程度、分科会では48名程度の運営スタッフが必要となるため、各市町からの協力をお願いしたい」と話がありました。

最後に、熊本大会に向けて堤公一副会長（こういちお兄さん）と唐ワンくん、参加者のみなさんと一緒に「ミランバくん体操」を楽しく踊り、閉会しました。

アンケート内容

基礎研修会・準備委員会終了後に御記入いただいたアンケートでは、委員も職員もほとんどの方が参考になったという回答をいただきました。

その一部を掲載します。（構成上、記載内容を要約しています。）

（基礎講座）

・社会教育委員の役割や現状、課題等を知ることができて、よい学びとなった。
・社会教育委員の役割はとても重要だと思った。

（感想・ご意見など）

・九州ブロック社会教育大会で次年度佐賀大会が行われると知った。これからが大変だなと実感した。私自身どれだけできるかわからないが、協力していきたいと思った。
・子どもたちの居場所作りは不登校や不登校の親、貧困や経済的に大変な親も含め、今とても今大切な問題の１つなので、これからも考え、支えていく必要があると思います。子どもたちだけでなく、大人の居場所も今後は考えなくてはいけないかもしれない。（少子高齢化の現代を支え合い共に生きる）
・社会教育委員は何をしているかわからない所があるので教育委員との区別をしてもらいたい。



こういちお兄さんと唐ワンくんと一緒にミランバくん体操

県社教委連第２回理事会
７月28日、今年２回目の理事会を開催しました。

協議事項として、令和８年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員の追加・変更、令和８年度佐賀県社会教育委員実践研修会開催要項等について協議し、承認されました。

令和８年度　佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役　職	氏　名	所　属
会　長	上野　景三	県社会教育委員長
副会長	山口ひろみ	県社会教育委員
副会長	堤　公一	唐松（唐津市）
理　事	荒木　健	佐城（佐賀市）
理　事	真島一英	三神（基山町）
理　事	福島スミ子	杵西（有田町）
理　事	辻田正信	藤津（嬉野市）
監　事	田中友子	杵西（武雄市）
監　事	堤　朋美	藤津（太良町）

臨時総会（書面決議後）

理事会終了後、引き続き「第57回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会第２回準備委員会について」が開催され、以下の事項について協議が行われました。

・開催要項（案）について
・収支予算案について
・動員計画（案）について
・賛助・広告計画（案）について
・大会テーマ及びサブテーマに関するアンケート結果について

第68回全国社会教育研究大会　大阪大会　概要予告

開催趣旨の概要

私たちには、多様な人材や地域資源をつなぎ、学びを社会の活力へと生かしていく社会教育のあり方について検討し、実践していくことが求められています。

そのような中、全国各地から社会教育関係者が集い、「多様な人材・資源をつなげる社会教育 ～学びを社会の活力に～」をテーマに協議を重ね、社会教育のさらなる推進と地域づくりの充実を目指していきます。

大会スローガン

「学ぶってオモロイやん　つながるってええやん　地域のことはまかしとき」

研究主題

～多様な人材・資源をつなげる社会教育 ～学びを社会の活力に～

期　日

令和８年10月28日(水)
　全体会
令和８年10月30日(金)
　分科会

①社会教育委員のネットワークの意義 ～子どもの生きる力を育む地域教育と社会教育委員の果たす役割～
②多世代が共に学び支え合う地域社会の構築 ～「なんとかなる」をみんなでつくる社会教育とは～
③地域とともにある学校をめざして ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動への期待と課題～
④地域に活力をうみだす社会教育人材の育成 ～社会教育委員と共に地域の活動で成長する若者たち～
⑤「行事」から「事業」への脱却 ～協働による「すこやか橋本まなびの日」～
⑥図書館による学びづくり・つながりづくり ～住民参加の図書館づくり～

会　場

大阪府庁咲洲庁舎、国際障害者交流センタービッグ・アイ、新梅田研修センター、大阪府立中之島図書館

第56回九州ブロック社会教育研究大会　熊本大会　概要予告

開催趣旨の概要

人口減少や度重なる自然災害を経験する中で、地域の絆や支え合いの大切さが改めて認識されています。熊本地震や豪雨災害からの復興の歩み、九州各県の社会教育実践を共有しながら、持続可能な地域社会の実現に向けた社会教育の役割と可能性を考える契機とします。

大会テーマ

熊本地震・豪雨からの復興、その先にある未来を見据えて
～社会教育の風が育む地域の力～

期日
令和８年11月５日(木)
　分科会
①地域資源を活かした社会教育の可能性
②災害への取組と社会教育の役割
③持続可能な社会のための社会教育モデル
令和８年11月６日(金)
　全体会

会場
市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市民会館)、熊本市国際交流会館ホール

わたしの社会教育委員活動

「ひと・まち・出会いの中で育つ子どもたち」

鹿島市　社会教育委員
芝原　正章

私は、「鹿島のひと」が大好きです。「鹿島のまち」も大好きです。それは、地域学校協働活動を通して、たくさんの「出会い」があったからです。

私は、社会教育委員として、高校教師として、「学校・家庭・地域をつなぎ、人と人との学びや活動を支えるコーディネーター」の役割を担う専門人材として活動しています。人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの希薄化が進む現代社会において、学校だけで子どもを育てることは難しくなっています。そのため、学校と地域が互いの強みを生かしながら協働し、「地域全体で子どもを育てる」という視点がこれまで以上に求められています。しかし、学校と地域の連携には、いくつかの課題があります。

第一の課題として、「学校と地域が互いの実情や役割を十分に理解できていない」ことです。学校は教育課程や安全管理など多くの制約を抱えており、一方で地域には、「学校は閉鎖的」、「学校が何を必要としているのか分からない」「学校とどのように連携すればいいのか分からない」という声も少なくありません。その結果、連携が一過性のイベントに終わり、継続的な協働活動へと発展しないことがあります。

第二の課題として、「教職員の多忙化」です。地域との連絡調整や活動の企画・運営には時間と労力が必要ですが、日常業務に追われる教職員にとって大きな負担となることもあります。そのため、学校と地域をつなぐコーディネート機能を担う人材の存在が重要であり、社会教育士が果たす役割はますます大きくなっています。

私は鹿島高校に勤務していた３年間、地域学校協働活動を積極的に推進してきました。その中心となったのが、高校生による「地域ボランティア活動」です。地域の清掃活動やイベント運営への参加、高齢者との交流、小学生への学習支援など、多様な活動を地域の関係機関と連携しながら実施し、昨年度は、１０００名を超える鹿島高校生が、地域で活動しました。活動を進める上で最も大切にしたのは、「学校が地域に協力する」という一方向の関係ではなく、「地域と学校が共に学び、共に成長する」という双方向の関係づくりでした。地域の方々からは、郷土の歴史や文化、地域課題について学び、生徒は地域社会の一員としての責任や役割を体感することができました。また、地域の方々からは「高





校生の元気な姿に励まされた」、「若い世代との交流が地域の活力につながった」といった声も多く寄せられました。この地域学校協働活動を通して、生徒たちの自己肯定感や主体性にも大きな変化が見られました。初めは消極的だった生徒が、地域の方々から感謝の言葉をかけられることで自信を持ち、自ら次の活動を企画・提案し、自走する姿も見られるようになりました。教室だけでは得られない実体験を通して、社会性やコミュニケーション能力、課題解決力を育むことができたことは、大きな成果でした。

第三の課題として、地域学校協働活動を継続するためには、学校内だけで完結させるのではなく、自治体や公民館、社会教育施設、企業、各種団体など、多様な主体とのネットワークを構築することが不可欠です。その際には、それぞれの立場や目的を尊重しながら、共通の目標を共有し、信頼関係を築くことが重要です。まさに社会教育士に求められる「つなぐ力」「対話する力」「協働を促進する力」が発揮される場面です。そのキーパーソンである社会教育士の育成と配置も大きな課題です。

私は38年間教育現場に携わる中で、学校教育だけでは解決できない課題を数多く目の当たりにしてきました。だからこそ、学校と地域が対等なパートナーとして連携し、子どもと大人が共に学び続ける「学びの協働体」を築くことが重要であると考えています。今後も社会教育士として、高校教師として、培った知識と実践力を生かし、地域と学校を結び付ける役割を担い、誰一人取り残さない持続可能な「地域づくり」と「人づくり」に貢献していく覚悟です。





「笑顔がくれる力」「仁」とともに歩んだ日々

多久市 社会教育委員
田島 恭子

多久市には国重要文化財「多久聖廟」があります。西暦１７０８年（宝永５年）に多久四代領主・多久茂文が孔子像を安置し領民たちに「敬」の心を育てるために建てました。

その「多久聖廟」の側で、長年働くなか私がいつも立ち返ってきた言葉があります。２５００年前の儒学の祖・孔子が説いた「仁」。人を愛し、思いやる心です。

公益財団法人・孔子の里に勤務していた頃、体験学習に訪れる子ども達が論語を素読し、目を輝かせる瞬間を何度も目にしてきました。礼儀や思いやりの心を育むその輝きこそが、のちに「孔子の里ジュニアガイド」を立ち上げる原動力となりました。

在職中の平成３年には、第１回「孔子祭」という大事業に携わりました。

中国・曲阜（きょくふ）市から孔子第77代嫡孫女（ちゃくそんじょ）・孔徳懋（こうとくぼう）女史をお迎えし、翌年には天皇皇后両陛下の東原庠舎への行幸啓を仰ぐなど、記念すべき節目に立ち会いました。また、中国から導入した伝統的民族芸能「腰鼓（ようこ）」を子ども達が活き活きと踊る姿を見て、私の確信はさらに深まりました。「この子たちのために、もっと動こう」と。

そんな中、福岡県立社会教育総合センターでの研修が大きな転機となり、多様な分野の方々との出逢いと学びは、事業への視野を広げてくれました。

平成11年、通学合宿などを教育



朱塗りの多久聖廟の前で！

委員会と協力して進めるなかで、子どもの育ちは家庭や学校だけでは支えきれないと気づきました。

時を経て、社会教育委員や民生委員として活動する現在も、その思いは変わっていません。ひとり親家庭や独居高齢者の元へ足を運ぶなかで、地域の大人が「ちょっと気にかける存在」として寄り添うこと自体が、子どもの安心感につながることを実感しています。それは、私が大切にしてきた「仁」の実践そのものです。

社会教育委員になった当初は、何をすればよいのか分かりませんでした。他の委員の方々が肩書に縛られず、培ってきた経験をのびのびと活かしている姿が、私自身の道筋を示してくれました。

「私も積み重ねてきたものを楽しめばいいんだ。」と、その出逢いが私の背中を押してくれました。活動のなかで出会う人たちの笑顔が、いつも私に力をくれます。子どもの輝く目、高齢者の方のうれしそうな表情、そのひとつひとつが、次の一歩の原動力です。

振り返れば、私の歩みはいつも「仁」に導かれていたように思います。

２５００年前の哲学が今も息づくこの多久で、これからも今までの経験を力に、「仁」の心を手放さずに歩んでいきたいと思います。

「十年間の葛藤、そして現状」

玄海町　社会教育委員

平山　潮恩

社会教育委員を充て職で拝命し、ちょうど十年になります。就任当時は「社会教育委員とは？」という認識でしたが、慣習により否応なく私に委員長のお鉢が回ってきました。手探りで会議の仕切り等をしておりましたが、その後参加した大会等で他県の多様な事例発表を拝聴し、大きな示唆と知見を得ることができました。

翌一月の県研修会では「委員任期が一年なのは県内で玄海町を含め二町だけ。たった一年で何ができるんだ、しかも充て職ばかり」と名指しされ、大きな衝撃を受けたのをつぶさに覚えています。「何とかしなくては！」と空回りしつつも町職員の方々と研鑽を重ね、どうにか道筋が見えてきた矢先にコロナ禍に見舞われました。

その後約四年間は書面会議となり、一度も顔合わせをしないまま委員が交代する状況でした。機器を貸与してのリモート会議も提案しましたが実現せず、現在も相変わらず「充て職・一年任期」が続いています。

それでも、私の小さな目標である「公募委員さんを一人でも入れる」「せめて二年任期にする」の達成に向け、今後も努力していく所存です。

現在、当町では以下の取り組みを実施しています。

・寿教室（年間十一回）

・子ども体験学習事業（子どもフレンチ教室、釣堀体験等／年間八回）

・図書館事業

これらの活動をさらに充実させるためにも、本町の社会教育の発展に尽力してまいります。

「子育て、楽しんでますか？」

佐賀市　社会教育委員

田中　歩美

３年前、私は、佐賀市子育てサークル連絡会（以下、連絡会）の仲間に加わりました。きっかけは、息子が２歳の時に参加した連絡会の交流会でした。交流会は、主に公民館で活動するサークルの代表などが集う場です。当時、私は自分の子育てでイライラしてばかりいました。会の中で、代表の方たちが楽しく子育てやサークル活動をしている話を聞き、自分が情けなくなり、涙が溢れてきました。その時に「つらかったね。あなたのような人のためにここがあるんだよ」と全てを受け止めてもらい、私は救われたのです。

連絡会は、現在、21サークルが所属し、子育て中の現役ママや先輩ママ、地域の方々、公民館などが、それぞれの地域に合った形で子育て中の親子の健やかな育ちを支えていけるよう、佐賀市関係機関や地域子育て支援センターと連携して活動しています。また、サークルとは違った角度から親子を

支援する『まんなかサロン』『なかまほいく』などの事業も展開しています。今、私は補佐から副会長となり、子育て中の親子の居場所作りにやりがいを感じています。

社会教育委員としてはスタートしたばかりの私ですが、サークルや連絡会の一員として、私と同じような想いや迷いのあるママたちの力になれるようこれからも尽力していきたいと思っています。

「私は今、佐賀で子育てができ、幸せで楽しいです！」

「社会教育委員としての活動と想い」

伊万里市　社会教育委員　尾形　崇

私は、社会教育委員として、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら連携し、子どもたちが安心して成長できる地域づくりを目指して活動しています。

本業では介護系施設に勤務しています。高齢者福祉に携わる一方で、伊万里市小中学校連合ＰＴＡ会長や少年バスケットボールチームの指導者として、多くの子どもたちや保護者、地域の方々と関わっています。こうした様々な立場で活動する中で感じるのは、「子どもの成長は学校だけではなく、地域全体で支えるもの」であるということです。

近年は、少子化や地域のつながりの希薄化などにより、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。そのような時代だからこそ、社会教育の役割はますます重要になっていると感じています。地域には多くの経験や知識、人材があり、それらを学校教育と結び付けることで、子どもたちに豊かな学びや多様な体験を提供できると考えています。地域学校協働活動などを通じて、学校・家庭・地域がそれぞれの強みを生かしながら子どもたちを育てていくことが、これからの地域づくりにつながると考えています。

社会教育委員としては、市民の皆さんの声や現場で感じた課題を行政へ伝える橋渡し役としての責任を大切にしながら、より良い社会教育の推進に貢献していきたいと考えています。そして、子どもから高齢者まで、誰もが学び合い、支え合える地域社会の実現に向けて、今後も現場の視点を大切にしながら活動を続けていきたいと思います。

「安心して暮らせる地域社会」

基山町　社会教育委員　藤丸　信一

基山町社会教育委員数は、10名です。10名が、顔を合わせるのは、一年に三回の社会教育委員会と町民会館運営委審議会です。町の文化・体育行事についての意見を述べています。

社会教育委員と同時に、他の役職・ボランティア活動を行っています。自治会役員、保護司、学校運営協議会委員、民生委員・児童委員、図書館おはなし会、百歳体操サポーター、児童支援員、きざん翁草保存会など。各活動を通じて、地域のみなさんとつながり、住みやすい町作りに努めています。

私の活動は、「公民館開放日」です。地区の公民館で毎月第二・四水曜日午後三時から五時まで、こどもから高齢者まで、どなたでも、自由に過ごすことができます。こどもは、学校の宿題、ゲーム、黒板アート。卓球に引っ張り出されたりします。おとなは、お茶を飲みながら世間話。こどもと一緒に、おやつ作りもします。かき氷、ホットケーキ、やきいも。賑やかです。参加者は、おとな・こども合わせて、毎回25名前後。たまに、中学生・高校生が、顔を見せると嬉しいものです。

この地域も少子高齢化で、近所付き合いも少なく、地域住民同士のコミュニケーションは、大事だと思います。

公民館で顔を合わせ、町中で会っても気安く声をかけられる地域にしたいとの思いで活動しています。



大人も子どもも楽しく過ごす公民館開放の日

「地域で学び、人とつながる喜び」

江北町　社会教育委員
古賀　雅基

「社会教育」と聞くと、少し難しい言葉のように感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、社会教育とはとは学校教育だけではなく、地域での学びや交流、文化・スポーツ活動、ボランティア活動など、誰もが生涯にわたって学び続けることができる環境をつくる大切な取り組みです。

私たち社会教育委員は、そのような学びの機会をより充実させるために、地域の声に耳を傾けながら教育委員会への提案や助言を行っています。また、地域の皆さんが安心して集い、学び、交流できる環境づくりについて考えることも重要な役割の一つです。

江北町には、公民館活動や文化祭、スポーツ大会、地域行事など、多くの学びと交流の場があります。こうした活動は、新しい知識や技術を身につけるだけではなく、世代を超えた出会いや地域の絆を深める貴重な機会となっています。

近年は、生活様式の変化や少子高齢化などにより、人と人とのつながりが希薄になっていると言われます。しかし、地域で交わすあいさつや、子どもたちを地域全体で見守ることなど、一つひとつの小さな行動が、安心して暮らせるまちづくりにつながっています。

学びに年齢は関係ありません。子どもたちはもちろん、大人も高齢者もそれぞれが学び、教え合い支え合うことで地域はさらに活気にあふれます。一人ひとりが持つ経験や知識は、誰かにとって大切な学びとなり、それが地域の財産として受け継がれていきます。

「地域で学び、地域で育ち、地域で支え合う。」

そんな循環が生まれることこそ、社会教育の大きな魅力です。私たち社会教育委員も、町民の皆さんとともに誰もが笑顔で暮らし、生きがいを感じられる江北町をめざして活動を続けてまいります。

ぜひ身近な地域活動や講座、イベントに足を運び、新しい学びを楽しんでみませんか。その一歩がこれからの江北町をさらに元気で温かい町へと育てていく力になると信じています。

令和7年度県社協委連活動方針の取組状況調査結果について

総会において、令和７年度社協委連活動方針の調査結果を報告したところですが、その結果内容を掲載します。

◇令和7年度佐賀県社会教育委員連絡協議会活動方針取組結果

１　社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。

【連携の具体的取組】

・社会教育委員会議での議論、報告、意見交換会等が開催された市町（佐賀市、唐津市、伊万里市、基山町、上峰町、白石町、太良町）

・学校教育と連携を行った市町（武雄市、鹿島市、神埼市）

・今後進展させようと考えている市町（多久市、小城市、嬉野市）

２　ニューズレター年２回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。

【活動の具体的取組】

・ニューズレターを社会教育施設に掲示した市町（佐賀市）

・社会教育事業への参加、支援活動を行った市町（伊万里市、小城市、白石町）

・ニューズレターを会議で紹介した市町（江北町）

３　教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

【意見交換の場の開催の有無】

・開催した市町（佐賀市、唐津市、武雄市、神埼市、みやき町、白石町、太良町）

・令和８年度以降開催予定の市町（多久市、嬉野市）

４　社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

【計画策定の有無】

・策定した市町（佐賀市、唐津市、鳥栖市、鹿島市、小城市）

・策定予定の市町（嬉野市）

５　日頃の活動で気付いたことや、将来のことなどを見据え、社会教育委員として取り組んだ方がよい

と考えるようなこと

・ＩＣＴの普及により生活の質の向上が期待できる一方、活用できない人が今以上に不便になる可能性があるため、デジタルデバイドについて地域の現状を把握し、対策に取り組む必要があると考える。

・地域での体験活動の課題の１つに、保護者の意識の低さ（参加したら運営側に入らなければならないのではないかといった負担感）があると考えられる。参加が難しい理由等の実態を把握するために対象者の声を聞いて、それを地域の社会教育関係団体と共有することで、参加しやすい体験活動の実施につながるのではないかと考える。

・会議の内容が行政側の事業計画や報告が主となっており、社会教育委員会が形骸化している現状である。意見交換も行っているが、教育委員会への提言等までには至っていないので、教育委員や学校現場との意見交換ができる体制づくりが必要と考えている。

編集後記

今年の総会・基礎研修会には、多くの皆さまにお集まりいただき、感謝申し上げます。

今号では、基礎研修会終了後に開催された、第57回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会準備委員会の概要を掲載しました。

来年の佐賀大会成功のためには多くの皆さまの協力が必要となります。特に、全体会、分科会では多数の運営スタッフが必要となりますので、各市町・社会教育委員の皆さまにおかれましては、御理解と御協力を賜りますようお願い致します。

本誌は、社会教育委員の皆さまに「わたしの社会教育委員活動」というテーマで、それぞれの社会教育委員の方の多方面での活動を執筆いただいています。

今号からは来年の佐賀大会に向け気運を高めるために、執筆者を7市町に増やして執筆をお願いしております。

基本的には市町の輪番による執筆ですが希望される場合はご連絡ください。

****
佐賀県社会教育委員連絡協議会事務局（佐賀県県民環境部まなび課）
〒８４０－８５７０（住所不要）
TEL　０９５２（２５）７３１３
Fax　０９５２（２５）７４０６
✉　manabi@pref.saga.lg.jp